

試行モデル及びサーバ環境構築に係る詳細事項解説

1 試行モデルの概要等について

新サイトの「試行モデル」は、PHP 言語を利用して作成したものである。WordPress 等の CMS や、Laravel 等の各種フレームワーク、CKAN 等のデータ管理システムは使用していない。データベースシステムは MySQL を利用しており、PHP は 7.4 系及び 8.0 系、MySQL は 5.7. xx 系で動作確認済みである。その他、データベースの保守性向上のため phpMyAdmin を、電子メール送付のため Sendmail を、毎月のアクセス数等の統計情報収集のため cron を利用している。

なお、この試行モデルは、サーバメンテナンスを含む利便性やコスト面を考慮した結果、いわゆる「商用レンタルサーバ」での利用を前提として作成しているが、クラウド環境等に OS から構築し運用することも可能である。企画提案書を作成する際は、どのようなプラットフォーム上に構築するかをはっきりと分かるように明記すること。

2 ドメインの設定

サイトのドメインは、現在運用中の旧サイトと同じ、地方公共団体情報システム機構（J-LIS）が管理する自治体ドメイン「data.city.kyoto.lg.jp」の利用を継続する。ドメインの DNS レコード設定（A レコードの IP アドレスの修正）は京都市側が行うので、受託事業者は、設定に必要なサーバ情報（IP アドレス）を京都市に提供するとともに、受託事業者が管理するサーバに適切な設定を行うこと。なお現在のところ、2023 年 6 月 1 日（木）を新旧サイトの切替日とする予定としており、それを前提とした作業スケジュールを組むこと。

3 SSL サーバ証明書

SSL サーバ証明書は京都市が取得し提供する。受託事業者は、SSL の空白期間が生じないように、京都市から受領した証明書を適切なタイミングで設置すること。なお、初回設置分については、現在運用中の旧サイトからの移行（令和 5 年 6 月 1 日～）の対応となる。なお、この初回の証明書の有効期限は令和 6 年 3 月 1 日であるため、令和 6 年 2 月中に再度の設置が必要である。

ドメイン「data.city.kyoto.lg.jp」に係る、SSL 関連の京都市からの提供予定ファイルは次のとおり。

- ・ CSR ファイル（.csr）（※初回設置時のみ）
- ・ 秘密鍵ファイル（.key）（※初回設置時のみ）
- ・ SSL 証明書（.crt）
- ・ 中間証明書（.crt）

4 データベースにインポートするデータ

新サイトのデータベース構築には、京都市で用意した SQL ダンプが利用可能である。本 SQL ダンプは、試行モデルの形式に合わせて作成したものであり、プロポーザルへの応募者のうち希望する者に別途提供する。

また、現在運用中の旧サイトのデータ（令和 5 年 3 月 31 日現在の、オープンデータの全ファイルと、MySQL の全テーブルの SQL ダンプ）を令和 5 年 4 月上旬に受託事業者提供予定であり、受託事業者は、それらのデータを新サイトに移し替える作業を行うこと。

なお、データベースのテーブル構成は、旧サイトと新サイトで異なることが見込まれるため、旧サイトの SQL ダンプを別のデータベースに一旦インポートした上で、必要なデータを改めてエクスポートし

たものを調整するなど、工夫して移し替え作業を実施すること。

5 サイトの検索機能（N-gram パーサー）

試行モデルでは、データセットやデータリソースの文字列検索には、MySQL のデータベースエンジン InnoDB の機能の一つである「N-gram パーサー」の機能を活用している。この機能を設定するための実行ファイルは京都市にて用意しており、受託事業者には別途提供することが可能である。データベースの各テーブルの構築完了後に、この実行ファイルを実行すると、検索用のフルテキスト INDEX が作成され、N-gram パーサーの利用が可能となる。

6 統計情報作成のための cron の利用

新しく設置する市ポータルでは、データセットやデータリソースへのアクセス数、ダウンロード数を随時集計し、統計情報として月ごとにまとめて表示できる機能を作成することを機能要件の一つとしている。

その統計情報の作成方法は、統計情報の「集計用プログラム」作成し、サーバの cron へ登録、毎月 1 日の 0 時 0 分現在で実行することを想定している。

なお、試行モデルにおける「集計用プログラム」の実行ファイルは、受託事業者には別途提供することが可能である。